

私たちの活動を紹介します！

久松手話サークル

(寄稿) 久松手話サークル 代表 ^{ほしみ} 星見 ^{あっこ} 安鶴子さん



ふれあい広場にボランティアとして参加



講習会修了者を中心に手話サークルを設立

昭和45年、厚生省（現：厚生労働省）の「手話奉仕員養成事業」を受けて、鳥取県でも手話奉仕員養成講習会が始まりました。講習会を修了した人や、ろう者ともっと話がしたい人、また会話をすることによって手話の楽しさを知りたいと思う人が定期的集まるようになり、手話をとおして交流が広がっていきました。

そんな中、「耳の不自由な人たちと友だちになり、ともに歩み、住みよい社会にしたい」という人が集まり、聞こえない人たちと一緒に考えて、昭和47年に手話サークルを設立しました。

サークル名は、鳥取市のシンボルである久松山にちなんで「久松手話サークル」に決めました。また、「手」で「心＝ハート」を表現できるという思いから、会のマークも作りました。

「一人の小さな手、何もできないけど（そんなことないよ）、それでもみんなの手と手をあわせれば、何かできる、何かできる（それはほんとだね）♪」。そんな思いで手話を学びながら、ろう者との交流やイベント等で手話ボランティアとして活動を続けています。

サークルでの思い出

○昭和48年の道路交通法改正により、ろう者も条件付きで運転免許の取得が認められました。そこで、翌年11月に、友人のろう者がチャレンジし、見事取得。サークル会員一同が自分のことのように喜びあいました。

○「耳が聞こえなくても、聞こえる人たちと一緒に踊りたい」そんなろう者の夢を実現するため、ろう者と一緒に鳥取しゃんしゃん祭に参加しました。市民の皆さんに踊りを見てもらうことで、聞こえない人たちへの理解にもつながると思い、昭和51年から毎年続けています。



○昭和60年に全国身体障害者スポーツ大会に手話ボランティアとして参加し、手話劇を発表しました。

【設立】昭和47年10月

【実行委員の数】40名

【活動目的】

手話を学び、手話を通じて聴覚障がい者（児）の福祉増進に努めることを目的とする。

【活動内容】

- ・手話学習：毎週木曜日にさわやか会館で開催
- ・機関紙「ぴいぶる」の発行
- ・サークル内行事の開催：会員外のろう者にも呼びかけて、研修会、夏・秋の交流会、ポーリング大会、クリスマス会等を開催
- ・市民対象の手話講習会等の開催（鳥取市社会福祉協議会から受託）
- ・ボランティア参加：ふれあい広場*、赤い羽根共同募金、鳥取県身体障がい者体育大会、鳥取市の障がい者福祉関係団体が主催する行事へ手話ボランティアとして協力、鳥取しゃんしゃん祭 他

手話を学ぶだけでなく「ろう者」との交流をはかる

私たちが耳からの情報で常識として知っていることでも、ろう者にとっては耳からの情報がないため、「知る」機会が制限されています。手話を学ぶだけではなく、聞こえない人たちと一緒に考え、人と人とのつながりをつくり、みんなが心豊かに暮らしていける社会を目指して活動したいと考えています。

これからも一步一步、歩んでいきたい

機関紙「ぴいぶる」の初版に、「遊ぶ時も頑張る時もみんな一緒」と記載しています。今まで活動が続いている力の源は、「聞こえる人も聞こえない人もみんなが一緒だったことにあるのではないかと振り返っています。これからも迷い悩みながら、一步一步ゆっくと、そして確実に歩んでいきたいと思います。



イベントで手話クイズをしました。

※ふれあい広場

鳥取市が主催。多くの方の協力を得ながら、障がいのある方を含めた市民の交流の場を提供することにより、まちに福祉の輪を広げることを目的として毎年開催されます。

〈連絡先〉0857-26-5860（星見代表自宅）